

いっせーのせ

発行 長坂ふれあいのまちづくり協議会・神戸学院大学ボランティア活動支援室

一杯の紅茶に思いを込めて

まちの気になる人、お店、場所…

この人に会いたい!



紅茶専門店ARIEL 店長
渡邊 一典さん 神戸学院大学卒

紅茶専門店ARIELは、開店から今年で42年目です。本格的な紅茶やスコーンを街の方々に振舞っておられます。大学の近くにお店を構えているのは、母校の後輩達に美味しい紅茶を飲んでほしいとの思いがあるからです。現在も、現役の神戸学院生やOB・OGの方々が紅茶を求めてお店に通っておられます。

学生の街だからこそ、多くの若者がこの街を訪れ、そして離れていきます。渡邊店長は、ここで紅茶を飲んだ学生たちには紅茶伝道師として、その魅力を多くの人に伝えてほしいと言っておられました。

取材 宮崎瑠希也 (人文学部3年)



深い味わいの紅茶と
スコーンの組み合わせは絶品!



神戸学院生が気になる<まちの人>を取材してご紹介します。こんな人がいるよ、あのお店を紹介して！前から気になっていたんだけど不思議な場所があるんだ… 情報をお寄せください！

地域を知ることが防災の第一歩！

◇お話を伺った方

令和4年度伊川を愛する会 会長 藤田 和伸さん

◇学生記者

神戸学院大学ボランティア活動支援室学生スタッフ

宮崎 瑠希也 (人文学部 3年)

梶原 健一郎 (経済学部 2年)



今号は、住宅の開発に伴い水質が悪化した伊川を「自然豊かなふるさとの川」に戻そうと発足した「伊川を愛する会」(以下、「愛する会」)を紹介します。

有瀬キャンパスに通う学生にとって「第二の故郷」である神戸市西区伊川谷町の「自然環境」について学ぶよい機会となりました。



学生記者の取材に応じる藤田さん

愛する会の活動について

「愛する会」は1994年に発足しました。自治会や企業、大学など100を超える団体と、会の活動にご賛同下さる100名を超える個人会員で構成されています。

活動は多岐にわたっています。伊川の清掃活動として年に一度の「大クリーン作戦」、子どもたちや地域住民が集う「伊川リバーフェスタ」や、伊川沿いを野鳥や植物観察しながら歩く「伊川流域ウォーキング」を主催するほか、環境教育の一環として行われている「ホタルを観る会」や「水辺教室」の実施にも協力しています。また「ゲートボール」や「グランドゴルフ」の大会の開催に加え、加盟団体

等が個別に実施する伊川のクリーン作戦に資材を提供するなどしています。

活動に関しては、会誌である「らぶりい伊川」を年1回発行し、会員方にお知らせしています。

桜の植樹で「憩いの場」に

伊川沿いに多数の桜が植樹されており、毎年きれいに花を咲かせ、市民の憩いの場となっています。桜は古いものは樹齢40年を超えていますが、まだまだ樹勢は旺盛です。桜の日々の管理は地域の住民が行っています。自然を守る住民の意識は高く、花見後のゴミはほとんどありません。しかし、以前、BBQのゴミが残っていることがありました。自然環境の保護の観点からも利用者は互いに気を付けてほしい。いつまでも地域の憩いの場所としてあってほしいと思います。

また、子どもたちに伊川の生物や川の水質について学ぶ機会を設けています。「ホタルを観る会」では、伊川に生息するホタルを太山寺小学校の子どもたちに観てもらい、自然の良さを伝えています。難しい面もあって、観察の場所を公にすると、人がたくさん集まり、水質の悪化や懐中電灯など様々な要因でホタルが減ってしまうことがあります。今後も生態の保護を慎重に行いながら、「観る会」への協力を続けていきます。他にも「伊川流域ウォーキング」では長時間のプログラムにも関わらず、野鳥や植物の専門家の話を聞けるのが好評で、毎年子どもからお年寄りまでたくさんの方にご参加いただいています。



質問をする宮崎記者

伊川を愛する会 を取材しました

「伊川谷で育った！」と誇りに…

新型コロナウイルス感染拡大で活動の自粛が長く続き、対面で活動ができることの良さを改めて実感しました。実際に会って活動することで、お互いに感情を読み取ることができ、楽しく、たわいのない話もできる。子どもたちの笑顔を楽しみに活動し、その笑顔が癒しや達成感となります。

子どもたちが成人した時に行事が思い出となって、「伊川谷で育った！」と地域を誇りに思えるようになってほしい。「子どもたちと一緒に伊川谷を盛り上げたい」という思いで活動を続けていきたいです。

20～50歳代の世代は、仕事や子育てなどで忙しくて地域活動への参加は難しいと思いますが、生活に負担がかからないように参加してもらえたらと思います。

大学生は、学生の得意なことで子どもたちを楽しませてもらいたいです。以前は、吹奏楽部の演奏やチアリーダー部の演舞をお願いしたことがありまし

た。それを見て、子どもたちが吹奏楽などに興味を持つきっかけになり、良い刺激を与えられる。

今年は、長らく中断してきた「伊川リバーフェスタ」を再開したい。新型コロナからの復興をめざします。ぜひ、ご協力をお願いします。

(取材日 2023年5月17日)



大学生も地域活動に参加しています

伊川を愛する会の主な活動

<伊川クリーンアップ>

伊川の自然、河川に生息する魚や鳥を保護して行くために環境美化を促進し、美しい伊川の魅力を再発見する。

- 8/5 伊川クリーン作戦
- 12/3 伊川大クリーン作戦 など

<伊川リバーフェスタ>

子どもたちや地域住民が川に親しみ、川で遊ぶ各種イベントを行う。感染拡大で開催できず、今年は4年ぶりとなる。

- 8/5 伊川ふるさと区民広場

<自然観察ウォーキング、教室など>

- 5月 水辺教室
- 6月 ホタルを観る会
- 8月 子ども淡水魚教室
- 11月 伊川流域ウォーキング

<その他>

- 10月 グランドゴルフ 11月 ゲートボール



愛する会発行の広報誌『らぶりの伊川』活動案内や報告をしています

ボランティアレポート

熊本スタディツアーを終えて

藤村浩輝(現代社会学部)・松本華歩(栄養学部)

2023年2月16日～20日(4泊5日)に、神戸学院大生6名が熊本へ行きました。「復興を学ぶスタディツアー」として、2016年に発生した地震の被害と復興状況を知り、風化を防ぐために学んだことを今後の活動に繋げることが目的です。

私達は甚大な被害のあった益城町、阿蘇市、南阿蘇村を訪れました。阿蘇は大自然からの恩恵を受けて畜産業や農業が盛んで、地域の人々のつながりも密接でした。南阿蘇村震災伝承館「轍(わだち)」では東海大生の語り部グループ、益城町では復興住宅で活動をしている熊本学園大生と交流をしました。お話を聞く中で、先行きが見えない中でも確実に復興へと歩まれているように感じました。「当初は息をしていることさえ辛かった。でも、この地域の人たちとこれかもらずっといたいと思うから、前に進むと決めた」という意見が印象的でした。また、地震によって被災したという経験をマイナスと捉えるのではなく、教訓として捉え、後世へ伝えることの重要であるという考えも印象に残りました。

これらのお話から、地域に寄り添うことや人と人との繋がりや重みを痛感しました。そして、神戸に住んでいる私たちができることや今後の被災地応援について考えるきっかけにもなりました。今回の学びをより多くの方に発信していきたいです。



復興住宅住人の話を聞く学生



大観峰から阿蘇の街を見渡す

長坂防災訓練に参加して

磯部翔(人文学部)・梶原健一郎(経済学部)・溝脇蒼生(人文学部)

2023年2月26日に長坂小学校で行われた長坂総合防災訓練に参加させていただきました。

学生ブースでは、長坂地域のことや災害時に役立つ豆知識の「防災クイズ」を実施しました。楽しみながら防災を学んでいただくことがねらいです。子どもたちや地域の方々に参加いただき、「楽しかった」という声をいただきました。

その他、神戸市西消防署が実施した「車いす体験ブース」のお手伝いもしました。子どもたちが想像以上に興味を持ち、積極的に車いすに触れていました。これをきっかけに、子どもや若い世代が少しでも車いすなど介助や介護について興味を持ち、行動に移すことが大切だと考えました。

炊き出しのお手伝いもしました。温かい食事が空腹を満たすだけでなく、被災者に安らぎをもたらす力があると知りました。炊き出しを作っているときや提供するときに、たくさんの長坂の方と交流することができました。炊き出しには人と人をつなげる役割もあるのではないかと思います。

今後もより長坂地域のことや防災についての学びを深めていきたいです。



防災クイズに興味津々の子ども達



初めての車いす体験

防災情報誌『いっせーのせ』VOL.9

発行 2023年6月1日

発行者 長坂ふれあいのまちづくり協議会

神戸学院大学ボランティア活動支援室

連絡先 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

神戸学院大学 ボランティア活動支援室

T E L 078-974-1551(大学代表)

E-mail kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp